

(母親からの移行抗体)が陰性化することを確認する。

4) 生後 3～4か月で HCV RNA が陰性の場合は生後 6 か月, 12 か月の時点で HCV RNA を検査し, 陰性を確認する。できれば生後 18 か月以降に HCV 抗体陰性化を確認し, フォローを中止する。

5) 母子感染例の約 30%は 3 歳頃までに血中 HCV RNA が自然に消失するので, 原則として 3 歳までは治療を行わない。3 歳以降に AST, ALT 上昇が 6 か月以上持続ないし変動する症例においては AST, ALT の経過, HCV RNA 量, HCV genotype, 肝生検所見からインターフェロンなどの特殊療法の適応を考慮する。

6) 原則として集団生活を含め, 日常生活に制限を加える必要はない。

#### B. HCV 抗体のみ陽性で HCV RNA 陰性の妊婦からの出生児

HCV RNA 陽性妊婦からの出生児に準ずるが, 出生～生後 1 年までの検査は省略し, 生後 18 か月以降に HCV 抗体を検査し, これが陰性であることを確認する。もしまだ HCV 抗体陽性なら HCV の感染があったと考え, HCV RNA 及び AST, ALT の検査を行って, 感染が既往か, 現在も続いているかを確認する。

以上

---

日本小児科学会雑誌 109(1): 78-79, 2005.